

2013.7.27~28 『奈奈子祭～夏の陣～』
ツアー1泊2日コース参加ミニレポート

— 初日 —

午前：新花巻駅集合。東京・盛岡と、大阪方面から新花巻空港入りした参加者の方々と合流。沿岸の釜石に向けてバス移動中、橋本先生による震災以降の芸能状況などのレクチャー。

お昼：会場である釜石市鶴住居町根浜の旅館「宝来館」到着。(甚大な被害を受けたこのお宿も、女将さんはじめ応援者の不屈の思いで再オープンした。)婦人会の方々の郷土食や釜石のキッチンカーによる昼食メニューを楽しむ。

午後：『奈奈子祭』開始。地元の仮設住宅から集まってきた方々に混ぜてもらって私達も鑑賞する。出演は地元釜石、大槌町、山田町、普代村、そして花巻から、「桜舞太鼓」「尾崎青友会虎舞」「雁舞道七福神」「愛宕青年会八木節」「鶴鳥神楽」「岳神楽」。ほとんど初めて目にする芸能の数々。しっかりと演舞する若者達の姿に、沿岸の人々の心意気を感じた。

夜：「岳神楽」「鶴鳥神楽」の方々と対面しての夕食(直会)。先ほどあんなに凄く舞をしていた神楽衆が目の前に。何を聞いても優しく楽しく答えてくれました。神楽衆が、ご馳走をいただく前に御礼を込めた唄「御祝」を唄ってください。これを聴ける機会は減まないだろう。美しい節。荘厳な気持ちになって自然と頭が下がる。

— 2日目 —

午前～午後：昨日の出演団体の土地を訪ねる。山田町、唐丹、釜石、雁舞道。バス移動中は橋本先生の解説があり、現地では芸能団体の代表の方が迎えて直接話してください。降り立った場所からは、かつての町の姿が想像できない。どの団体の方も練習場所に困っている。建物がまず無いし、あっても借りて使うこともままならない状況とのこと。そんなことさえ、言われなければ気がつかない。しかし、まずこうやって芸能団体の方と他所の者が話をし合うことが、お互いにとって貴重だという実感を覚えた。

15時：各地の訪問が名残惜しく少しずつ伸びて、お昼は駆け足で釜石駅周辺のお勧めの飲食店に散らばる。15時頃、沿岸を離れる前に釜石駅前でお土産など購入。ここからはバスで花巻へ移動。花巻空港、盛岡、東京に向けてそれぞれの帰途につく。

『奈奈子祭～冬の陣～』に応援出演

日時:12月7日(土) 14:00~18:00
会場:三陸花ホテルはまぎく(岩手県大槌町浪板海岸)入場:無料
出演:白澤鹿子踊(大槌町) / 城山虎舞(大槌町) / 雁舞道七福神(大槌町) / 愛宕青年会八木節(山田町) / 鶴鳥神楽(普代村) / 早池峰岳神楽(友情出演:花巻市) / 鼓童(応援出演:佐渡)

JTBツアーのご案内

①1泊2日の参加コース(東京・岩手発着)
②1泊3日の夜行バス利用コース(東京発着)
③弾丸ツアー-0泊2日(東京発着)
④ボランティア2泊3日(東京発着)
詳細は、<http://www.jtb.co.jp/tabbeat/volunteer/> から各コースへお問い合わせは、JTB コーポレートセールス Tel. 03-6737-9410

が、震災後は情報収集がままならない中、被災地を歩き回って各種の助成事業を紹介し、申請作業も手伝うなどの支援に尽力され、芸能継承者と支援者を結びつけるプロデューサー、コーディネーターとしての役割を担ってこられました。

◆『奈奈子祭』の企画は、これまで橋本先生が来てくださった芸能団体・個人・支援者の繋がりが生み出しているとも言えるでしょう。今回、鼓童が『奈奈子祭』の陣々へ応援出演することになったのも、この二月に私が訪れた大槌町の芸能祭で橋本先生のお話を伺ったことに端を発しています。先生とは、佐渡の芸能のご案内をするなど古くからのご縁がありまし

◆『奈奈子祭』の企画は、これまで橋本先生が来てくださった芸能団体・個人・支援者の繋がりが生み出しているとも言えるでしょう。今回、鼓童が『奈奈子祭』の陣々へ応援出演することになったのも、この二月に私が訪れた大槌町の芸能祭で橋本先生のお話を伺ったことに端を発しています。先生とは、佐渡の芸能のご案内をするなど古くからのご縁がありまし



7月の「奈奈子祭」にて鶴鳥神楽。実は笹山さんのご子息も若き鶴鳥神楽衆。この春から普代村に就職したのを機に、幼い頃から慣れ親しみ、憧れた神楽に打ち込む。



芸能、人々を突き動かす力
～鼓童、奈奈子祭に応援参加～

二月の「奈奈子祭」にて。造形・色彩・振りに目を見張る田郷鹿子踊(たごうししおどり)。民家の庭で繰り広げられる芸能の形。

私達の舞台は、日本人が連綿と伝えてきた郷土芸能と出会い、気持ちが高まるような刺激を受け、憧憬と尊敬を持ちながら学びを請うことから始まりました。その大切な東北沿岸の郷土芸能が震災で存続の危機に陥りました。しかし、まだまだ生活の見通しもつかない苦しい状況下でも、芸能復活の声は着実に重ねられています。それは、地域の復興の為に芸能が必要なのだという、継承者達のゆるぎない確信による力強い一歩に他ありません。郷土芸能とはいったい何なのか。そのヒントになるような芸能祭「奈奈子祭」に出演させていただくことになりました。三陸沿岸の持続的な復興を応援しようと模索、挑戦するこの祭りをご紹介します。願わくば多くの方々との出会い、この祭りでの味わいを共有・共感したいと思います。

文●千田倫子 写真提供●西嶋一泰氏(民俗芸能STREAM代表) Heartbeat Project Logo Design: Haruna Kino

◆奈奈子祭のはじめ

今年一月にNHKで放送された復興サポートの番組で、壊滅的な被害を受けた釜石市鶴住居地区を中心とする芸能団体の代表者が集まりました。郷土芸能を通じて、バラバラになった住民がまた集まり元気を取り戻す為にはどのような方法が良いのか、そして今日集まった団体で数年後にも郷土芸能祭が出来れば良いなという話になったそうです。しかし、そこで参加者の笹山奈奈子さんが、「近く実家に神楽を呼ぶので、数年後と言わず、みんなそこに来たらいい」と発案。即実行！の機運が高まり、約一ヶ月後の二月二四日、発声者の名前をタイトルにした『奈奈子祭』が釜石市箱崎町白浜で開催されました。

◆三陸沿岸に生きる廻り神楽

笹山奈奈子さんのご実家は、鶴鳥神楽の神楽宿。この三陸に今でも残る廻り神楽とは、鶴鳥神楽(普代村)と黒森神楽(宮古市)が行っているもので、冬の三ヶ月間、権現様と呼ぶ獅子頭を奉じて隔年で北と南を交互に廻り、それぞれ約百キロの沿岸を巡行します。各集落では重立ちの家が「宿」となり地域の人々を集めて、神聖な演目から笑いが巻き起こる演目まで、その喜び、楽しみを享受します。そこにはもう、演者と観客の境はありません。神楽宿という空間は、権現様に見守られるながらお互いの交歓の場。芸能を介して双方が生きる力を養っている場でありました。そんな貴重な神楽宿を、こ

の震災は数多く奪ってしまったのです。

◆まるで神楽宿のような祭り、を目指して

『奈奈子祭』は、そういった神楽宿のような空間を再現して、被災地域の芸能に場を提供して応援し、地元の人には元気を取り戻してもらおう。そこに旅人をも招き入れ、芸能の持てる力を皆で感受し合おうという、新しい形の祭りです。

実行委員長は、奈奈子さんのご主人である笹山政幸さん。奈奈子さんのご実家の白浜の神楽宿の当主名代も務められていました。ご自身も仮設住宅に暮らす被災者であり、所属する芸能団体、釜石市の由緒ある「南部藩壽松院年行司支配太神楽」も被災されています。そんな状況にありながら、震災の年の七月、笹山ご夫妻は宿主として釜石の避難所慰問公演を鶴鳥神楽に依頼、実現させました。また神楽宿である白浜のお宅は一部が大破していましたが、ご夫妻の何としても地域住民の集まる場を守りたいという情熱に支援も寄せられ、家を修復し、翌年の一月には鶴鳥神楽の来訪を例年どおり迎えるという偉業を成しました。その人々を繋ぐ芸能への信頼、地域への思いの深さには驚きを隠せません。

この鶴鳥神楽を通じてご夫妻と出会って以来二人を応援し続けているのが、追手門学院大学教授の橋本裕之先生、『奈奈子祭』実行委員の一人です。橋本先生は震災当時、盛岡大学に教授として在籍し、岩手県の民俗芸能調査研究や、無形民俗文化財指定に携わっておられました